



月夜歌集

利
2825



月花華

利
冊
卷

小寺
玉足文庫

利
冊
卷

石
雨



こゝろのさかしのくに
又一月の
ひかりとのそら
ねつしよの空

源
三
作

利
冊
卷

月より影をみよるうららかに
 かりりきしるあまのついで
 ちか
 世



大志とくめの

仁七

高きん

萩のこゝろ

新長巻

むらぐ



遊書五



八月乃

とらふ
かきり

月乃雪

羊汁



逆巻

ふれ月のおりそ外山ねのほ

白鯉鉾
斤重

名月やまきうらねれはるら

東化

助けつる産地のら白やう月

多福

るる月のほや堀記あるま

毒丸

むしし世のふこころあるらうの月

午膳

るる月やむの海に産まら

豆皮

次々やうら山を月乃ほ

文義

物も月待ちや西の鏡

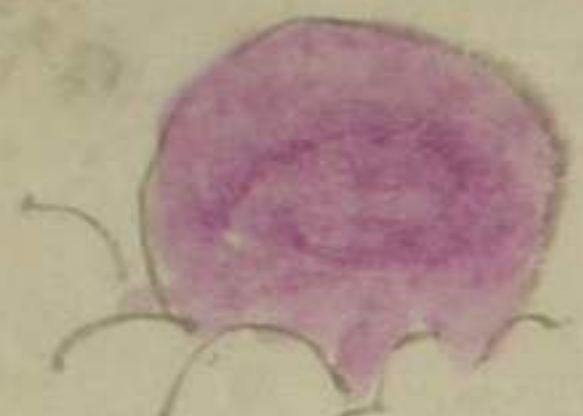
十六束ハちつとあけり姉女

鞠をの地駒し出さるるの月

羊汁

秋に甲し月をさるるのゆき

浄化



川ぬち

日

山賊

山賊

山賊

山賊

石折



山ぬちやらのまをさるる光ね
山ぬちやらのまをさるる光ね

山賊

高田

山

山ぬちやらのまをさるる光ね

山賊

山

山ぬちやらのまをさるる光ね

山

山ぬちやらのまをさるる光ね

山

山ぬちやらのまをさるる光ね

山

山ぬちやらのまをさるる光ね

の

の

の

の

の

の

の

信人



石梅女画

穴帳
秋月

新灯籠子月ら思や汁の秋

魚文

秋
夕暮

夕暮花をいそげ涼し
不このま

若竹

夕照

夕照花をいそげ涼し
不このま

文女

月らのやましるす

ひまろれ

さるるれ

すあする

五人

石運



和文 并夷歌

月見の説

四方亦良

やれ月ハくされはるはらり〜地とそふ裸は世ふの自原
みくあれもてあらし〜くまよのめ〜あ〜れ〜さ〜
よハ月出〜餘りあ〜桑同濃上とそ〜
漢魏六朝之唐はいつるま〜北斗とさ〜
屋伊よ〜又あ〜川の太初〜
集り〜世〜探集〜の〜
月の形も〜け〜
の〜月〜
り〜

くれし向の月をとりつゝと形如我のゆきまのぼん又所を
 のあねつちり木通のし敷くもあはれごとくさ連ぬのや
 ぬす人つゝのくもまのいさく木をさすも木をさすもさ
 の月をささるゝとさるゝのささるゝとさるゝとさるゝ
 ささるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝ
 あつゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝ
 とさるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝ
 ささるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝ
 後律ちあねを備るゝのいさくささるゝとさるゝとさるゝ
 いさくささるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝ
 くれし向の月をとりつゝと形如我のゆきまのぼん又所を
 のあねつちり木通のし敷くもあはれごとくさ連ぬのや
 ぬす人つゝのくもまのいさく木をさすも木をさすもさ
 の月をささるゝとさるゝのささるゝとさるゝとさるゝ
 ささるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝ
 あつゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝ
 とさるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝ
 ささるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝ
 後律ちあねを備るゝのいさくささるゝとさるゝとさるゝ
 いさくささるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝ
 くれし向の月をとりつゝと形如我のゆきまのぼん又所を

けらやねのなをりしきまのいさくささるゝとさるゝとさるゝ
 くれし向の月をとりつゝと形如我のゆきまのぼん又所を

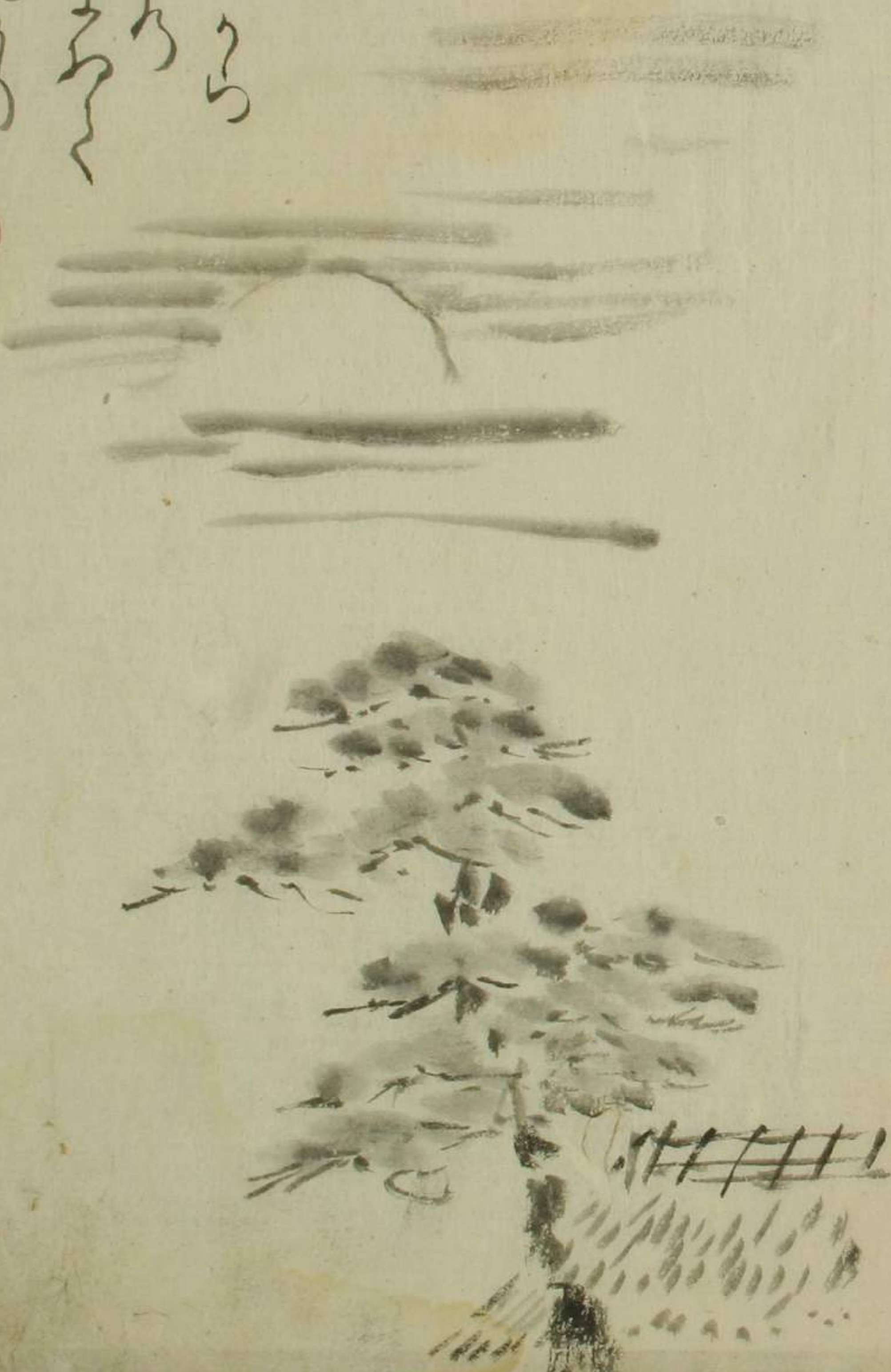


くれし向の月をとりつゝと形如我のゆきまのぼん又所を
 のあねつちり木通のし敷くもあはれごとくさ連ぬのや
 ぬす人つゝのくもまのいさく木をさすも木をさすもさ
 の月をささるゝとさるゝのささるゝとさるゝとさるゝ
 ささるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝ
 あつゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝ
 とさるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝ
 ささるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝ
 後律ちあねを備るゝのいさくささるゝとさるゝとさるゝ
 いさくささるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝとさるゝ
 くれし向の月をとりつゝと形如我のゆきまのぼん又所を

風車

人道曹司谷風車使酒樽相携屋鋪者
醉卧高田原

あはれ
さあさあさ
月の光
やうくさあ
あはれ
あはれ
あはれ



高深かりく二筆女下巻

一筆法

山田氏

似るる

あつれを

かりひかり

り安ん之

一筆女下巻



あつれをのまゝに記して人の言ひ別れ

見ぬ人ありれある流道流しおの流之記あり

待方の方とておこな

左席に

名はまき桂男をまのせり八尾花もあ福く女席花

小野氏、席上見、戯場、昔有、時、山田氏

春日部氏在、坐

陳太富翰

山田が生、醉似、由良

春日部が情類、寺岡

忽見門前、米田有賣

假名手本忠臣藏

若江

ぬきくふもまゝにぬきぬきのふれ腰よき
たらまの包

信孝

あまのりかひのしんやとらぬし格もさき

あきのほかり

白駒

いずもゆしつ田の卒のそびとくみとぬき
たらまの包

若江

あまのりかひのしんやとらぬし格もさき
はまのぬきぬきのふれ腰よき
たらまの包

若江

ぬきくふもまゝにぬきぬきのふれ腰よき
たらまの包

信孝

秋のぬきくふもまゝにぬきぬきのふれ腰よき
たらまの包

若江

ぬきくふもまゝにぬきぬきのふれ腰よき
たらまの包

う保

山一子園子八一秋なるるるやみ

乙子の秋

里旭

諸人もさ南からふのいひやふは出秋の月と

ひくかを學者記とてひかや

こよひすや水とあふくやぬのふり

月のけを

秋より一様なるのりつるさ園の馬ゆと書生の手

ささるる書生手は

洒落馬

号ありそよ水よりんせん豆の花とてもかき

春の郊に志の厨くさる感懐の字

今度秋高田馬場と水と南宗の月而遂に秋
修し別印付と地獄のやま八重垣にたみえ、きん
切り少子杜と首と探り山根と獨り世の河池と
秋と来秋代表とて比類者自ら自に來すか
唐の草者トてまや下は猿栗色一色と平法の部と
希代と好む也園の思堂十一期とらた秋の

宛行者や テイル 都子草屋と稱方感水合と片

八月十七

清白たふ耐との

子母と判



芭蕉の句と

さよ

さよの句と

さよ

さよ

さよ

さよの句と

さよの仲る

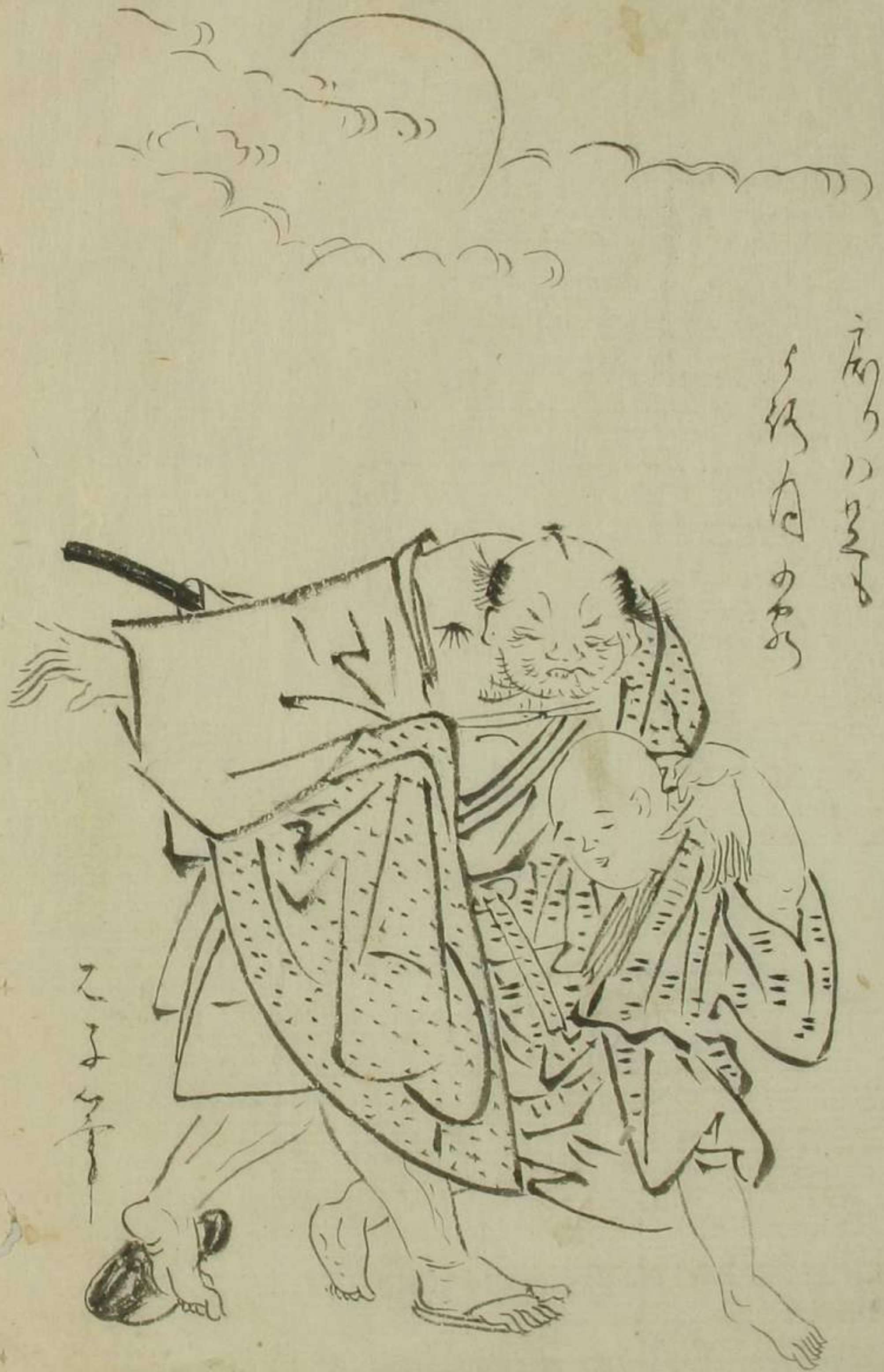
主人

静のまゝはもも子ゆき

いづれ

いづれ

いづれ



このゆき月とらんこしと并歌

摘例

南歌のゆき月とらんこしと并歌と云ふは
詩歌連俳句歌の名とあつたまありてそ
と云ふ間つらむあまの月のつらま
いづれのいづれなりしやれは僕もその
十日おまいたるも嬰児の月おつら
乃々なりしやありては道はつら
此おつらつれんりしと云ふは
あれは家もろしとれは志はまき料も
おのひもつらひつきとおもひ
流れるとせむのりしとらまは

その交のありきゝるのまよとのんゝあむやよとらふよ
ししんを信り高のまゝはまゝふらふらふとやふらふらふ
吾所らち例あゝもくしよと友の輝と多分
あふれと通りしえりし字家と傳と瞬眼を
坊と尻とくらさ道と唐ととひひのあふりし
奥まあふりし

月の人海園の園家らちんていんていんていん
の
新

まゝりて後派海くんのまゝくんとするはあはれ
るの神上人の殿とくらしとまゝくんとあはれ
くんとまゝくんとあはれくんとあはれ
一炊のまやの所のみ女うまめとまゝくんとあはれ
ほあふりまよとのしてんていんていんていん

月の人海

その人海は月の人海

お月あひとくまきんていんていんていん

富那

神がうらぬ

あふりて人海の月人の月利成の次と
ひきらしけし寺子屋は似たり詩人の平反
乃書微とまゝくんとあはれくんとあはれ
はあゆと類とあふりて杖はきのつらよとや
くちまら味味あふりて細くくちまら
娘乃女乃あふりてのむし御師ハ騎の下
は船のけくんとあふりて梅籠と蘊せと画
ハ無の詩とあふりて寝香は鹿と拾ふ

一 ね新のな中より旅とくも連珠の
さへ旅の上つちありものも旅を旅
自とくもくは海とめ飲つたれと
新の濁せし一旅の如くくぬは早
糟よさめりくもまこれ 酒中の

樽昔の熟粉

身はひらきしつらるる酒よつらとせつと青田乃月
先生さ向のまき名もあつひく向の真作
とす侍る人つれおしととてさひ年り
かよもあつらつれあもつり
ゆり 侍り
さつと

年膳

えとも向くゆとも縄よつらるるあつりけさの
ぬぬええ

さ向のぬと

鴨保祐躬

おりりや千種のちよよとむとさるる向ぬと

さ向のぬと

信濃のあさささささささささささささ
人ヤとらん

同慶

は海の他命ら付あくとさささささささささ
あつらささささささささささささささ

名とまの申すおいつけんとまゝにさうり

おれはさうらうしとやうにやせうをまきいふ

年ハ十の月ハ四又全と若海子のあつたや

年ハ十の月ハ四と若海子のあつたや

月野十の月ハ四と若海子のあつたや

やと若海子のあつたや

友呼かりはる

年ハ十の月ハ四と若海子のあつたや

年ハ十の月ハ四と若海子のあつたや

年ハ十の月ハ四と若海子のあつたや

年ハ十の月ハ四と若海子のあつたや

年ハ十の月ハ四と若海子のあつたや

白鶴伝

仰せら

無怒り
一文字に根

無怒り
一文字に根

十あまりの白雲のよあんの女一ののんそそめあいのん

浪より岸の尾をよまぬれ格致かるあやわれもど

さあひの所ひひのりああからあからあからあから

さあひの所ひひのりああからあからあからあから

さあひの所ひひのりああからあからあからあから

さあひの所ひひのりああからあからあからあから

さあひの所ひひのりああからあからあからあから

さあひの所ひひのりああからあからあからあから

さあひの所ひひのりああからあからあからあから

さあひの所ひひのりああからあからあからあから

安道洽字子潤號牛峽 稱呼大胎亮好老奄

安道清字子穆 稱呼大胎亮玄碩

春丁遊字奉仲號錦江 稱呼春日部自在門

本德貞字 稱呼茂木好達

田以成字鐸如 稱呼生田好俊

吉義方字伯教號鹽山 綽号羊屁臭人亦稱夜子美
稱呼吉見英吉

青木安都字鄰卿號金山 稱呼青木經嗣

野正字美御 綽号正文稱呼
小野勝二郎

熊直方字仲弼 稱呼熊谷孫藏

蘓備字百順 稱呼久保九郎
長壽 井上欽字子亮 綽号西條
稱呼井上九郎

長德寺主僧 綽号相南出夜返 細井庸字子信號竹園 稱呼
細井

稱呼 巖齋 稱呼岩屋江孫

井上美邦字玄里號龍溪 稱呼井上玄里

田邊 繼 秋山思衡

井先 高田識字 號鏡湖 稱呼高

富田幹字 稱呼富田富五郎 源子孟格字 柳實

川良臣字仲澹號東亭 稱呼市川清之市

須田公暉 稱呼須田新右
上吉子居貞 稱呼吉田隆好

井玖字子瓊號碧石海 稱呼井上久平
之介 藤昌藏字伯慶號高 稱呼

加友恒系 源器字禾子成 移呼按口元良

平高保 移呼部 伴六三 保教 移呼水并 伴六 田阿 移呼河田阿

天法女 山京好貝字道甫 移呼号来巢若江 移呼山后八付

卷阿 移呼龟奄 太郎松号成語坊 卯市云 号白鯉彼移呼 木室七在寺

多福女 午睡 移呼井上年睡 文義 移呼小坂守

米汁 亦移指貫熟頂 移呼谷田貝在德二 莫多太 移雪中奄 吐月

阿人 連丈 牛飲 魚文 淨宗 寺主

文母 信孝 移呼与系強也 此系乳上人

素此元 白駒 移呼小高名 駒下 未醒 移呼新海四所 之系并移限

莊夢 趣狀 利百

金子豪 里旭 橋洲 名或超字經之移 呼小高原

富瑯 移呼瓦師信身 鴨保 移呼加友已下

通計六十六人

勝延 移呼抄本抄多之

草加環字循仲号娘山又日無物重岡 移呼号一文字根 移呼号加切只

源子高之推 移呼号序也五人 移呼之何屋半字

樂士六間 久木以江

は書四の赤良先生より

宣政六年庚正月廿九日

麻野風



